

自己改革

JA紀南の挑戦



小玉果における労力と生産コスト低減対策として取り組みを始めたA・B・C混合タル (中芳養原料倉庫)

加工事業は、毎年の消費動向や豊凶による流通量の変化にともない乱高下する不安定な価格が事業の難しさの要因であり、生産者にとってもあり、生産者にとっても大きく変動する生産量とその所得に不安がある。特に過去最高となった平成25年の大豊作による価格の暴落時には、「再生産価格を維持できない」との生産者の悲痛的な声が相次いだ。

このためJAでは、2次加工の原料となる白干し梅(タル製品)の価格安定のため、さまざまな対策を講じてきた。平成26年からは、3年間2期の契約で白干し梅の価格安定契約を実施し、昨年からは、最低保障価格を設定する取り組みを始めた。一般の流通価格と保障価格を比較し、生産者にとってはより優位な価格で販売できるというメリットがある。

また、生産者の小玉果における労力と生産コスト低減策として、A・B・C混合タル(Lサイズ、M・Sサイズ)の買い取りも行っている。

現在、JAは自己改革に取り組んでいるが、約半世紀に渡って取り組んできたJA紀南の梅加工事業は、すでに時々の環境変化に対応しながら「改革」を繰り返してきた。

今後その方針は変わらず、若者の就農意欲が湧くような農業となるよう、生産者の安定的な所得確保対策に取り組んでいく。そして、先代が築いてきた紀州梅のブランド産地を10年後、20年後、未来へと継承させていきたいとの大きな視野に立ち、JAの使命を果たしたいと考えている。

白干し梅の価格安定めざして 安定契約やABC混合タルを実施

質・量・名実ともに全国に誇る紀州梅干し。その大半が田辺・みなべ地域で生産され、梅干し関連の業者はざっと300社以上にのぼる。JA紀南も加工事業を通じて梅干しメーカーとしての地位を確立し、ブランドの維持と農家所得の向上に努めている。一方では課題も多く、特に価格の安定対策が強く求められている中、JAでは生産者と協議しながら、白干し梅の価格安定契約や生産コストの低減策として小玉果のA・B・C混合タルなど独自の取り組みを始めている。

加工事業は、毎年の消費動向や豊凶による流通量の変化にともない乱高下する不安定な価格が事業の難しさの要因であり、生産者にとっても大きく変動する生産量とその所得に不安がある。特に過去最高となった平成25年の大豊作による価格の暴落時には、「再生産価格を維持できない」との生産者の悲痛的な声

生産者が出荷する白干し梅の平均的な等級割合が、A級45%、B級10%、C級15%、20%、その他は規格外品という中、A・B・Cの混合は「規格外品を除くだけでよく、選別の手間が省ける」と好評で、価格はB級並みの設定としている。

平成30年度の取扱数量は、L、M・Sサイズあわせて約1万3千タルだった。生産者からは他のサイズの取扱いの希望もあるが、加工部では「紀州梅ブランドを守り、上級品の単価を維持するためには、中心階級のA級品は一定量確保しなければならぬ」と、当面は現状で様子を見る考えだ。